

**鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会  
議事録**

日時：令和5年8月19日（土）

10：00～12：00

場所：新在家町公民館

**【出席者】**

■住民：40名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 荘史
	〃 政策推進課	副参事	衣川 智久
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太朗
	総務部	理事	丹羽 和人
	〃 防災危機管理課	課長	竹下 博和
	〃 資産活用課	課長	浅田 明典
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	建設部	副理事	寺田 満夫

**【議事次第】**

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

**【配布資料】**

- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 居住性向上エリアC 2回目

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

● 質疑応答

	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 3 ページと 4 ページ目以降の内容の違いは何か。3 ページの内容(内水氾濫と区画整理)と 4 ページからの将来予想がなぜ切り離されているのか。</li> <li>・内水氾濫と区画整理はランドデザインにおいて非常に重要だと思う。ランドデザインを実現するには、区画整理しないと絶対無理。</li> <li>・水害が起きる中でどうやって住民を避難させるかをまず考えなければならないのではないか。</li> <li>・市の排水処理能力が大丈夫かなどの基礎情報があってから将来のまちづくりの話をすべきではないか。</li> <li>・区画整理について、皆さんの希望があればというよりも市としての区画整理案を提示してもらい、それをもとに住民と意見交換をした方が良い。</li> </ul>
1	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の説明会の目的は、前回いただいた意見や質問についての回答及び将来予想の現時点での修正要否の確認である。</li> <li>・(市の内水ハザードマップを示し)内水氾濫について、市ホームページで公開している内水のハザードマップでは平成 18 年の豊中観測所で観測された既往最大で 24 時間雨量 116 ミリ、1 時間 110 ミリの降雨があった場合、どこで内水氾濫の可能性があるのかを示している。公開中の内水ハザードマップは平成 26 年に作成されたもので、現在、大阪府で新しい内水氾濫についての数値を準備している。市の上下水道部からは来年度中には新しい内水ハザードマップが完成する予定と聞いている。</li> <li>・市が決めて住民に示す方法だとこれまでと同じ進め方となる。今回しようとしているのは、これまでと異なり、当初から住民の皆様と一緒に考え、その上でまちづくりをするための手法の 1 つとして区画整理がある。今後、ワークショップで具体的な手法についても検討するのでその際にはご協力いただきたい。</li> </ul>
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥飼まちづくりランドデザインが住民の意見を尊重して取り入れ、市の政策としていることは素晴らしい。</li> <li>・鳥飼まちづくりランドデザインが少子高齢化の中、鳥飼地域のまちづくりをどのようにしていくかということも理解したが、私としては、鳥飼の人口、生産年齢人口を増やすような政策が必要だと感じる。例えば、就労者の多い事業所については市として優遇措置を設けるなどの対策はどうか。</li> <li>・鳥飼小学校の 1 年生が 10 人くらいだとの話を聞いた。その人数だと学校そのものが成り立たなくなる。鳥飼小学校の 10 年前は 1 学年あたり生徒が 100 人近くいた。今は近隣の鳥飼北小学校でも 1 学年が 60 人程でどんどん減っている。人口減少に伴って市の税収も減っていくことから人口減少の中でどうやって人口を増やしていくのかを取り組むべきではないか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に人口減少は進んでおり、それ自体は避けられない。鳥飼地域に人口を増やすためには、魅力づくりが必要となる。皆さんと一緒にどんな魅力を作ったらよいかを議論していきたい。これまででは市としてこういうまちづくりをしますといった手法であったが、ランドデザインはそのような手法とは異</li> </ul>

		<p>なり、地域の意見を踏まえながら地域の将来を一緒に考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥飼小学校の生徒数が減っていることも認識しており、小学校の統廃合についても市ホームページ等でも公表されているが、市としても検討を進めている。</li> </ul>
	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的なまちづくりという文言は素晴らしい。しかし、魅力的なまちづくりをどう作っていくかは非常に難しい。具体的に事業所をどのように増やしていくのか、人口をどのように増やしていくのかを考える必要がある。全国的に人口減少が進むのは理解したがすべての地域で人口が減るわけではないと思うので鳥飼地域の人口をどうやって増やしていくのかを検討すべきだと思う。</li> </ul>
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住性向上エリアCには、新在家の稲荷神社と鳥飼八防にも稲荷神社がある。両方とも初午祭りを行っているが、鳥飼八防の稲荷神社の方が大々的に初午祭りを行っている。鳥飼八防の初午祭りに関しても追記してほしい。</li> </ul> <p>(後日、市が確認した結果、毎年2月11日に藤森神社の宮司を招き、初午神事を執り行っているとのことであった。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新在家1丁目、2丁目の北側を通行するトラックは地域の関係企業の車両のみにしてほしいことについて、その目的は大型車両が通行すると普通車両が通行できないことや歩行者が安全に通行できないからである。</li> <li>・居住性向上エリアCは鳥飼まちづくりグランドデザインの中でも人口密集地である。居住性向上エリアCの世帯数や人口はどれくらいか。また、鳥飼北小学校区の自治会の加入状況を教えてほしい。</li> <li>・集会所の耐震性と耐用年数はどの程度か。</li> <li>・市営鳥飼野々団地跡地の使用目的と面積について教えてほしい。</li> <li>・市として防災機能を重視したコミュニティセンターを造る必要性を考えているのか。</li> <li>・居住性向上エリアCの避難場所を教えてほしい。</li> <li>・仮に水害が発生した場合、どのように救助するのか。</li> <li>・防災機能を有したコミュニティセンターを建設する場合、国や大阪府から補助金等はあるのか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住性向上エリアCの世帯数は1,860世帯、人口は3,860人である。鳥飼北小学校区の自治会加入率は28.3%である。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、市立集会所は避難所ではないことを申し伝えておく。その上で集会所の耐震性について、昭和56年以前に建てられたものについては旧耐震基準であり、耐震性に懸念がある。どこが耐震基準を満たしているかについては次回お示しさせていただきたい。(※後日、確認した結果、居住性向上エリアCで耐震基準を満たしているのは、第26集会所と新野々集会所)</li> <li>耐用年数については、集会所は基本的に木造であるため減価償却資産に係る法定耐用年数(実際に使用できる耐用年数とは異なる)は22年。この地域のいずれの集会所も減価償却資産に係る法定耐用年数が到来している状況である。</li> <li>・市営鳥飼野々団地の跡地の使用目的については面積の約半分を売却済であり、</li> </ul>

		<p>残りの土地について用途は決まっていない。また、面積は合計 2,679 m<sup>2</sup>。</p>
市		<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住性向上エリアCの避難場所については、地震時も水害時も鳥飼北小学校が避難場所となっている。また、水害時に限っては関電エンジニアリングの立体駐車場も避難場所となっている。立体駐車場は水害時水没する階層もあるが、感染症対策を踏まえて1人あたり 5.3 m<sup>2</sup>のスペースを考慮して 303 名の避難が可能である。エリアの周辺では、第二中学校も上階への避難が可能である。水害時は地震時と違い水没する避難所もあるため、避難場所が非常に限られる。そのため、市としては、広域避難を推奨している。</li> <li>・救助方法について、仮に建物の上階に避難したとしても 2 週間以上水没した状況になることが考えられる。水害時、一部では堤防の決壊によって氾濫流が発生する。そのような中で救助は 3 日以上かかる可能性がある。</li> <li>・防災機能を付加したコミュニティセンターについて、例えば、この場所にコミュニティセンターを建てたとすると、国土交通省のプラトールによると、水害時地上から 3.39mまで浸水する。説明会場の 2 階まで浸水することとなる。仮にコミュニティセンターとして建て替えるとしても、目の前の堤防の高さを超える洪水が発生するため、孤立した状態となる。この地域は浸水継続時間が 2 週間以上であることから、そのような状態で食料品やトイレ等を確保し生活するのは難しい。垂直避難はもちろんあるが、この地域は浸水継続時間が長いいため、市は広域避難を推奨している。</li> <li>・コミュニティセンター建設時の補助金については、例えば、公園についても防災機能を付加した公園は補助対象となることから、補助金がないとは言い切れない。</li> </ul>
市		<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金について、コミュニティセンター等の建物を建てる際には様々な補助制度があり、機能や目的により、補助率は様々である。事業費の 100%が補助されるものは無いが、1/2 補助や 1/3 補助といったものがある。建物を建設するという方向性が定まった際には、より有利な補助金の確保に努める。</li> </ul>
住民		<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会開催時は、市公式 LINE や広報紙、広報板等を使い周知徹底していたが、なかなか人は集まらない。ワークショップでは参加者を集めるのは難しいと思う。自治会の加入率は 28.3%とのことだが、ワークショップにどうやってきてもらうのか、しっかりと検討してほしい。</li> <li>・災害時の避難について、昨今の災害状況を見るとこれまで経験したことがないような雨が降り、水害が発生しているため、水害時は取り残される人が出てくると思う。対策や避難場所について考える必要があると思う。</li> </ul>
住民		<ul style="list-style-type: none"> <li>・類似例として茨木市のさくら通りは昔、川が流れ、両側には堤防があった。しかし、今は埋め立てられており、道路も整備されアクセス性も良くなっている。新在家地域も同様にすればアクセス性も向上すると思う。防災面について、現在の堤防の高さを超える洪水が発生するのであれば、堤防をかさ上げすればよい。堤防をかさ上げしてアクセスも良くすることで憩いの場もよくなる。既成概念を取り払ってそういった考え方ができないか。</li> <li>・摂津市は安威川以北への資金投下が多くみられる。鳥飼まちづくりグラウンド</li> </ul>

		デザインを本気で実現させるなら、税金に応じた資金投下を鳥飼地域にすべきである。
4	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥飼まちづくりグランドデザインは、鳥飼地域の人口が減少していく中、活性化するためにはどうしたらよいかという点から議論が始まったと認識している。人口減少のために将来新しい建物を建てるのは難しいという考え方で鳥飼地域の活性化に取り組んでいくことは少し違うのではないか。</li> <li>資料 18 ページの市民病院の件について、三島二次医療圏の基準病床数を上回っているとのことだが、摂津市の既存病床数はいくらなのか。摂津市の基準病床数を上回っているのか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>病床数については市単独で考えず三島二次医療圏という圏域で考えるため、現時点では基準病床数を大きく上回っている。担当課が不在のため、この場で摂津市の病床数がいくらなのかは答えられない。</li> </ul>
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見の収集に偏りがあると思われるため、もう少し広く意見を収集したらどうか。</li> <li>取組の方向性について、ワークショップでどこからやるのかを検討したらどうか。ワークショップは全体と分科会と分けて実施するべき。</li> <li>全体のスケジュール感を教えてほしい。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見収集について、前回の資料を市ホームページで公開し、その後 1 か月間意見募集の期間を設けた。その中でいただいた意見について本日ご紹介させていただいている。意見の提出については居住性向上エリア C の住民に限定したものではなく、広く誰でも意見を出せるようにしている。</li> <li>取組の方向性について、いただいた意見については居住性向上エリア C に定める取組の方向性に含まれている。ワークショップはテーマごとの開催を予定している。</li> <li>全体のスケジュール感について、鳥飼まちづくりグランドデザインは子や孫の世代を見据えている。これを実現するために方向性について皆さんと意見交換しながら、子や孫のために何ができるのかを考えてほしい。</li> </ul>
	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料 27 ページに記載されている「計画を立案」の時間感はどれくらいか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画についても、取組によってまちまちなので一概にどれくらいでできるとは言い切れない。</li> </ul>
	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>このエリアのワークショップはいつ終わるのか。また、鳥飼まちづくりグランドデザイン全体のワークショップはいつ終わるのか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの終わりについても、取扱う意見の進捗状況によって変わるためいつ終わるのかは未定。ワークショップ全体がいつ終わるのかについてもまだ検討できていない。説明会を開催できていないエリアが多数あるので、まず鳥飼まちづくりグランドデザインを鳥飼地域の皆さんに知っていただくことを今年度の目標としている。その後、順次ワークショップをスタートする予定であるため、全体のスケジュール感についてはお示しできない。</li> </ul>
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民にも市にも反省材料があると思う。住民側は、これまで 3 年間説明会をしてきたが、ほとんど参加がなく興味をもつ方がいない。市側の反省点は、議</li> </ul>

		<p>論の論点が見えないことである。鳥飼まちづくりグランドデザインは子や孫の世代を見据えて、今何をすべきかを議論すべき場である。意見の中には今困っていることもあるため、現状と将来の意見をひとまとまりにせず、すぐ解決できる意見については分けて考え、メリハリをつけるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の加入率について、鳥飼北小学校区の加入率が 28%であったが、鳥飼西小学校区の自治会加入率は 23%程度。鳥飼北小学校区や鳥飼西小学校区は今人口が増えつつある。しかし、自治会に入らないから加入率は低いままである。しかし、鳥飼まちづくりグランドデザインの将来予想では、地域が活性化されお互いが助け合える地域コミュニティが形成されているとされており、その水準までどのように持っていくのかを考えていく必要がある。</li> <li>・令和 8 年度末で鳥飼東小学校が鳥飼小学校に合併される。2057 年には鳥飼地域の人口減少が顕著であり、将来は 1 小学校、1 中学校で十分になる。このような現状を共有したうえで、まちづくりの議論を始めるべきではないか。</li> <li>・千里丘駅西口の再開発事業によるマンションに 2~3,000 人が入居すると聞いているが、市外から 40%、市内から 60%が入居すると聞いている。そうなると、必然的に利便性が悪い鳥飼地域から千里丘地域へ人の移動が起これ、鳥飼地域の人口減少を加速させてしまう。市の政策として鳥飼地域の人口を減少させている。</li> <li>・今できることはすぐに担当課で処理させて、ワークショップでは鳥飼まちづくりグランドデザインが掲げる子や孫の世代のまちづくりについて議論すべきである。</li> </ul>
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新八防自治会は数十年前に水害で 100 件の床上浸水の被害を受けた。そこから 40 年近くまちの移り変わりを見てきたが、どこがどう変わったのかわからない。</li> <li>・先日の台風 7 号で鳥飼北小学校に 6 人避難したと聞いている。</li> <li>・鳥飼まちづくりグランドデザインでは、子や孫の世代を見据えたまちづくりを掲げているが、災害リスク等の差し迫った問題を置いて、将来のまちづくりを議論するのではなく、現実問題に取り組むことが求められているのではないか。新八防自治会も加入世帯が 300 世帯から 170 世帯に減り、地域の結びつきが薄まる中で身近なことを考える必要があるのではないかと感じた。</li> </ul>
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回初めて参加したが、1 回目が開催されていることを知らなかった。今回の説明会を知人から聞き、聞いておかないといけないと思い参加した。</li> <li>・どれだけの住民がこの説明会を周知しているか。自治会へのチラシの回覧や市ホームページ、LINE 等で周知していると思うが、見なければ知らないところで説明会が開催されている。来てないから知らないままとすると、参加人数は少なく良い意見は出ない。そのような状態で若い方の意見が知りたいといっても若い方への周知が行き届いていない中では意味がない。</li> <li>・様々な媒体で周知されていると思うが、興味があってもホームページや LINE を見る余裕がない、自治会に入っていない等で知る手段がない人がたくさんいると思う。興味があっても知る術がなく知ることができない人を放ってお</li> </ul>

		<p>かず周知することが鳥飼まちづくりグランドデザインのような大きな議題を進めていく上での第一歩だと思う。</p>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としても若い世代の方にきていただきたく、様々な周知方法を使っている。説明会対象地域の小中学校へ説明会のチラシを配布し、生徒を通じて子育て世代へ周知を行った。また、YouTubeに2パターンの鳥飼まちづくりグランドデザインの動画を掲載している。その他、広報板にチラシを掲載し、自治会を通じて配布、市のLINEによる通知を行っているが、現状、結果は出ていない。今回、知人から聞いて説明会に来てくれたとのことだが、口コミを通じた横の広がりはとても大切なので、可能であれば知人に声掛けしていただき今後のワークショップにも参加してほしい。</li> </ul>
9	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回、鳥飼北小学校の全校生徒へチラシを配布したと思うが、非常に効果があったと思う。ただし、それでも若い人が来ないのは、参加する意識が低いのではないかと思う。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>他にも、周知の仕方があればぜひ教えていただきたい。</li> </ul>
10	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>各意見について、庁内で議論した結果、こういう方向性で検討しますと言った結果を示してほしい。特に、今すぐできるものについては進捗状況を見せてほしい。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような形で示せるかも含めて検討する。</li> </ul>
11	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>一番願っていることは新在家にコミュニティセンターを建ててほしいということ。私が70年前に体験した芥川の堤防決壊による水害から、今後の災害時においても避難してくる人はいると思う。コミュニティセンターについては、今後のワークショップで検討してくれるのか。</li> </ul>
	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップで検討するテーマの1つにはなる。</li> </ul>
	住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、先程の市営鳥飼野々団地跡地の2,600㎡について、1㎡10万円として2億6,000万円の資産価値がある。国や大阪府からの補助金を活用して防災機能を重視したコミュニティセンターを建設することも重要な項目の1つに入れていただきたい。</li> </ul>

以上